



屋敷林の未来を考える

3/21 安曇野屋敷林フォーラム

市民などで構成する屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト(場々洋介リーダー)では、穂高交流学习センター「みらい」で3月21日、5回目となる「安曇野屋敷林フォーラム」を開催しました。この催しは、市民に屋敷林など、安曇野の特色ある景観や文化を考えてもらおうと開催したもので、市民など約50人が参加。当日は、富山県砺波市の散村保全の取り組み紹介やパネルディスカッションなども行われました。場々さんは「屋敷林はすばらしい財産。安曇野について考える機会にしてほしい」と来場者に呼び掛けました。



地域防災へ決意新たに

3/6 市消防団寺畑団長 永年勤続章を受賞

長年、消防業務に従事し勤務成績優秀な消防団員に贈られる総務省消防庁の永年勤続章(てらはたよしじ)を市消防団の寺畑佳司団長(穂高有明)が、市消防団員として初めて受賞しました。

本庁舎で3月6日、宮澤市長に報告した寺畑団長は「受賞は、家族や職場、団員の支えのお陰」と感謝し、「今後も団員と共に地域住民の安全安心のため、活動していきたい」と決意を述べました。

桑畑からブドウ畑へ 荒廃農地再生

3/14 明科・天王原地区でワイン用ブドウの植え付け

荒廃した農地をワイン用ブドウ畑として再生する取り組みが明科七貴・上押野区内の天王原地区の農地で始まり3月14日、関係者が赤ワイン用の「メルロー」の苗を植え付けました。

当日は、宮澤市長や農業委員など約50人が参加。植えつけ前に式典が行われ、今回、公募により耕作を担うことになった池上文康さん(明科中川手)は「農で地域を元気にし、信州ワインバレーの一員になるよう頑張りたい」とあいさつしました。

この取り組みは、明科地域の農業委員が中心となり「明科地域の農業を守る会」を平成25年10月に設立し始めたもので、農地の地権者などと協力し、以前は桑畑として耕作されていた荒廃農地約3.4ヘクタールを整備してきました。

今後は池上さんが「メルロー」と白ワイン用の「シャルドネ」の苗を合計約5,000本植える予定で、3年後には収穫し、ワイン醸造元に出荷できる予定です。



植え付け講習会(左上)、整備された農地(左下)、ブドウを植え付けする池上さん(右)

新本庁舎へはしご車出動

3/12 新本庁舎ではしご付消防自動車の架梯調査(てい)

市役所新本庁舎での業務開始を前に、松本広域消防局によるはしご付消防自動車の架梯調査が3月12日、新本庁舎敷地内で行われました。この調査は、火災発生時に迅速に消火・救助活動が行えるよう、3階建て以上の建物を対象に、管轄する消防署の警防計画に、あらかじめはしご付消防自動車の活動方針等を定めておくものです。

この日は、豊科消防署と車両が配備されている渚消防署(松本市)の職員11人が出動。実際に30m級のはしご付消防自動車を操作しながら、車両の配置場所やはしごが届く長さ、最上階からの避難者救出場所などを確認しました。

豊科消防署の高木稔署長(取材当時)は「調査結果を有効に活用し万一の出動に備えたい」と話しました。



早春の安曇野に邦楽の調べ

3/22 安曇野高橋節郎記念美術館 早春邦楽演奏会

安曇野高橋節郎記念美術館の早春邦楽演奏会(同館主催)が3月22日、同館主屋で行われました。この演奏会は、名誉市民の故・高橋節郎さんの生家で、国の登録有形文化財になっている主屋で邦楽を楽しんでもらおうと同館が企画。この日は、箏と尺八にピアノも加わり、宮城道雄の「春の海」や滝廉太郎の「荒城の月」など5曲が演奏され、集まった約100人の参加者が邦楽を楽しみました。参加者の村山和可さん(穂高)は「日本の音楽の素晴らしさを感じ、心がとても落ち着きました」と話してくれました。



松くい虫被害材に新たな命を

4/10 松くい虫被害材活用 木工作品展示会

松くい虫被害を受けた松の被害材を有効活用し、制作した木工作品の展示会(市・あづみの再活の松プロジェクト主催)が4月10日から17日まで穂高交流学习センター「みらい」で行われました。初日には、家具や食器、子ども向けのおもちゃなど幅広い分野の作品が会場に展示され、来場者は作品に手を触れるなどしていました。同プロジェクトの代表を務める田川理貴さん(穂高有明)は「被害を受けた松も優れた木材として活用できることを多くの皆さんに伝えていきたい」と話しました。